

第1回 大洲市民文化会館建設検討委員会会議録【要約】		日時	令和5年7月5日(水) 13:30~15:40
		場所	大洲市役所 3階第1会議室
出席者	委員17名 総務部長 事務局 3名 株式会社佐藤総合計画 2名(オンライン1名) 株式会社シアターワークショップ 1名(オンライン3名)		
傍聴人	なし		
報道関係者	なし		
議題	1 協議事項 (1) 委員長・副委員長の選任について (2) 大洲市民文化会館整備概要、スケジュールについて 資料1 (3) 設計提案について 資料2 (4) グループワーク 資料3		
	2 その他 事務局より伝達事項 次回検討委員会について 会議の傍聴について		
<p>1 開会(事務局) 委嘱状交付(略式) 副市長挨拶 委員自己紹介</p> <p>2 協議事項 (1) 委員長・副委員長の選任について 委員の互選により、委員長に口井委員、副委員長は尾上委員と決定した。</p> <p>(2) 大洲市民文化会館整備概要、スケジュールについて <質疑応答 なし></p> <p>(3) 設計提案について(設計者説明) <質疑応答></p> <p>委員：おおず回廊はとていいと思うが、休館日でも利用できるか。月曜日が休館日か？ メインホールでイベントがない時でもおおず回廊は通り抜けできるのか。 24時間利用できるトイレも整備されるのか。</p> <p>設計者：国道側から、総合福祉センターまで通り抜けできる設計とし、運営時間内であれば誰でも利用できる、多世代が快適に過ごせる場所にしていきたい。それが「おおず回廊」という私たちの提案(想い)である。 日常的な利用時間は今後の協議となる。</p> <p>事務局：おおず回廊は施設が開館している時は通れるという仕様である。(閉館後は通れない) 現施設の休館日は月曜日であるが、本施設の休館日や開館時間等については、今後の管理運営計画での協議となる。</p> <p>議長：管理運営計画は次回、第2回検討委員会で決めるということか。</p> <p>事務局：管理運営計画は、令和7年度から検討を始める計画である。</p>			

委員：周辺の（市外）施設では、雨天時には施設内で出店もできるようになっているが、この施設はどう計画しているか。

また、過去の会議では夜間も練習できるといわれていたと思うが、夜間にスタジオや多目的室等を利用する際には、おおず回廊は閉まっているのか。

コンサートや発表会を見に行くためだけの施設ではなく、ワンコインで映画が見られたり、日常的に行ったりできる素敵な場所になればいいと思う。

設計者：「日常的に素敵な場所だから行きたい」と思っただけの施設整備を目指して、設計に取り組んでいく。

委員：おおず回廊は後々、出店もできる仕様か。

設計者：出店とは屋台のようなものを想定されているのか。おおず回廊は、建物の中にあるので、火気の利用の有無、電気使用の有無等の条件がある。建築の法律とホールの余力の中で、できることは最大限検討していきたい。

委員：和室が計画されていないが、どのように考えているのか。

設計者：設計提案の中では特定して示していないが、和室が必要であれば要望を上げていただきたい。

委員：メインホールが700～778席であるが、この規模で興行に対応できるのか。

駐車場も（用地の問題もあると思うが）300台では足りないのではないのか。

大洲ICからのアクセスをもう少し考えた方がいいのではないのか。

事務局：検討を始めた当初は1,000席という意見があったが、その後の建設検討審議会、市民ワークショップ等で今後の人口減少や興行としての施設規模等も踏まえ検討し、基本計画の中で、現在の席数を決定した。大洲市民文化会館整備基本計画の前提条件があるためご理解いただきたい。

駐車場については、用地の問題もあるが、分担率や同乗者率等も踏まえ、基本計画の中で算出したものであるためご理解いただきたい。

大洲ICからのアクセスについては、国道56号と市道田口徳森線から（2方向で）アクセスできる状況である。

委員：多目的室、練習室、スタジオの規模、防音仕様の有無についてはどうか。

設計者：3室のうち、2室ないし1室は、今後の設計の中で、音響の防振、遮音の数値を算出しながら、防音仕様を決定していく計画である。諸室の規模は、利用想定により規模を計画していく。建物全体の規模から割り振っていくようになると考えている。

委員：国道は混むため、県道大洲長浜線（若宮旧道）を利用される方が多くなる懸念をしている。多目的室は、有料で会議室としても利用できるのか。

設計者：会議室として利用できる想定である。

委員：50～100人程度での利用ができるのか。

設計者：規模は今後の設計において検討をしていく。

委員：サブホールの席はどのような仕様か。

大屋根が特徴的な設計であるが、大屋根の下での明るさの確保はどのようにするのか（暗くならないのか）。

おおず回廊は常にオープンにしておくことはできないのか。

資材高騰に対してはどのように考えているか。

設計者：サブホールは、スタッキングチェアやロールバック等の椅子の仕様、配置できる席数について、本設計の中で比較検討、決定していく。

大屋根の下の明るさは、壁面にガラスを効果的に活用することで確保するとともに、軒を出すことで、日差しを遮る省エネ効果やガラスを汚さない効果もあることから、メ

メンテナンスコスト抑制にも効果があると考えている。中庭という特徴的な空間が、建物内部に光を取り込むため、この周りはとても明るい空間になると考えている。

夜間はLED照明を効果的に活用していく。

資材高騰については、物価に対応できる建物規模にする、コンパクトな施設にする、規模を縮小することがコスト削減に対して、対応力を持っていると考える。

委員：おおよそ回廊は内部と外部の仕切りがなく、常時開放されたものにするにはできないのか。

設計者：技術的には可能であると考えているが、おおよそ回廊が外部空間になってしまう。そうなるのと諸室間の移動時に、暑さ、寒さを感じる空間になってしまう。屋根は架かっているが一度外に出るといったイメージか。

委員：そうである。

設計者：おおよそ回廊には、メインホールでイベントがある場合に、観客がたまる場所（ホワイエに入る前の場所）になるという役割がある。そのため、外部空間になってしまうと、お客様が待つスペースがなくなってしまう。日常の居場所確保や活動が見えるという環境をインテリア（内部空間）として提案させていただいた。

委員：資材高騰も考慮しながら進めていただきたい。

委員：サブホールの展示に関しては、絵画や書道、写真等を簡単に展示できる仕様を望む。移動式の壁やレールにより簡単に展示できるようになると嬉しい。その他、シャトルバス等で高齢者も利用しやすい環境を整備してほしい。

委員：メインホール裏の楽屋（大中小）では、着物に着替えたり、リハーサルを行ったりするが、練習室でリハーサルをした場合は、メインホールを出て回廊を横切ることになるため、動線について検討いただきたい。大楽屋が練習もできる仕様か。

設計者：スタジオ、練習室、多目的室は、リハーサルの利用も想定されるが、この配置は、おおよそ回廊に市民の活動が映し出されることが文化振興においては重要であると考えての配置である。ご意見も踏まえどこまで工夫できるか検討していきたい。

委員：高齢化が進んでいるため、段差、動線等については利用しやすいよう検討してほしい。

委員：エレベーターはあるのか？

設計者：計画している。

—休憩—

（４）グループワーク

<ご意見等 別紙>

3 その他

<委員なし>

事務局より第2回建設検討委員会について

→第2回検討委員会は10月頃開催予定

会議傍聴の可否について

→可

4 閉会